Program

第1部

ゴールデン・ジュビリー ・・・・・・・・・・ ジョン・フィリップ・スーザ
Golden Jubilee — John Philip Sousa

3つの夜想曲より「祭」 ・・・・・・・・・・ クロード・ドビュッシー
"Fetes" Nocturnes - Triptique Symphonique — Claude Debussy

宇宙の音楽 ・・・・・・・・・・ フィリップ・スパーク
Music of the Spheres — Philip Sparke
t = 0 / The Big Bang / The Lonely Planet / Asteroids & Shooting Stars / Music of the Spheres / Harmonia / The Unknown

休憩

第2部

YSBポップスステージ

Members

Flute&Piccolo
清水　美希
鄭　昇
中村　淳子
畑　奈々
松尾　聖美
宮島　史明

Oboe&English Horn
石坂　未来
大西　俊朗
奥瀬　汐里
時田久美子
山口友貴乃

Fagotto
市原　靖生
中川　穂南

E♭Clarinet
横川　莉沙

B♭Clarinet
大森　夏帆
刑部　真生
小杉　智
菅　優衣
野原はる菜
藤井　尚也
藤下　秀顕
堀口　美紀
渡辺麻知子

Alto Clarinet
木村里緒奈

Bass Clarinet
小岩井佑夏
中島　康博

Allto Saxophone
志岐優理子
田邉　和義
戸邉　皓子
三成　一樹

Tenor Saxophone
伊藤あゆみ
廣瀬　寛樹

Baritone Saxophone
柴山さゆり

Trumpet
天野　聖民
稲澤　茉優
柿崎　鮎美
高橋　明弘
竹縄　虎威
増田　優香
米田　勇樹

Trombone
瀬野　貴行
福富　静香
峯尾明日香
吉川　明花
吉田　佑亮

Horn
内田　理恵
澤田　逸平
奈良　麻美
比留間夏海
水野　早菜
若林奈津季

Euphonium
奥秋　雄一
田澤　唯
成田　峰士

Tuba
篠原　砂月
関谷　仁美
野島　祥平
森永　卓

Contrabass
北野　未幸
小林　大河

Percussion
天野真里衣
石澤　衛
新藤　毅
土橋　稔
宮田　奈々

Harp
都築　紀子

音楽監督
甘粕　宏和

団長
市原　靖生

副団長
田邉　和義

運営部
中村　淳子
奈良　麻美
峯尾明日香
宮島　史明

パンフレット製作
森永　卓

音楽仲間を募集しています!
やまももシンフォニックバンドでは、現在オーボエ以外のすべてのパートで団員を募集しています!
練習見学、体験入団など、お気軽にご連絡ください!
yamamomo.sb@gmail.com

ホームページでは事務局ブログも公開中♪
http://yamamomo-sb.com/

やまももシンフォニックバンド

第2回 定期演奏会

2nd Regular Concert

2015年 3月1日(日) 開演 14:00 (開場 13:30)
南大沢文化会館 主ホール

Greeting

本日はお忙しい中、やまももシンフォニックバンド第2回定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

結成2年目の今年度は、初年度よりも活動の幅を広げ、アンサンブルコンテストへの初参加（フルート四重奏）、第7回全日本市民バンドフェスティバル出場、第3回シンフォニックジャズ&ポップスコンテスト全国大会出場と充実した活動を展開することができました。これもひとえに支えてくださる皆様のおかげと、団員一同心より感謝申し上げます。一つ一つの行事を通して、少しずつではありますが演奏団体としての地固め、メンバーの足並みが揃い始めたのではないかと思っております。

感謝の気持ちを音に込めて、お客様と共に音楽を楽しむ所存でございます。つたない演奏ではございますが、どうぞごゆっくりお楽しみください♪

団長　市原 靖生

Profile

やまももシンフォニックバンド（YSB）
2013年6月、甘粕宏和氏を指揮者に迎え発足。“ともだちのともだちはみなともだち”この言葉の通り、音楽というご縁で結ばれたたくさんの仲間たちが集いました。「やまもも」は一年を通して葉を落とすことがなく青々と茂り、赤いチャーミングな実を付ける、日本中で見かけるおなじみの木です。まだまだたどたどしい足並みではありますが、団を運営する難しさ、自分たちの手で作り上げる楽しさの両方を味わいながら、一歩一歩前進していく所存です。ステージ上から発せられる「演奏できる喜び」が客席のみなさまに届き、幸せなひとときを共有できますよう努力してまいります。みなさまどうぞあたたかくお見守りくださいませ。

指揮　甘粕 宏和 *Hirokazu AMAKASU*

東京音楽大学（フルート）卒業。

中学2年時に受けた八田泰一氏の指導に衝撃を受け、中学3年時での小澤俊朗氏との出会いがその後の人生を決定付けた。大学在学中は汐澤安彦指揮シンフォニックウィンドアンサンブル団長として活躍。アンサンブル・ミュルミュール木管五重奏団としてこれまでに5度のリサイタルを開催。

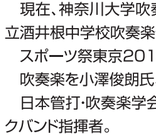
現在はバンドディレクターとして全国各地で、また日本吹奏楽指導者クリニックをはじめとする各種講習会講師や審査員などをつとめている。粘り強くきめ細かいサウンドトレーニングには定評がある。また、ユーモア溢れる実践的な講習会は各地で好評を博している。

現在、神奈川大学吹奏楽部、東京都立片倉高等学校吹奏楽部コーチをはじめ柏市立柏高等学校吹奏楽部、柏市立酒井根中学校吹奏楽部など全国数多くのバンド指導に携わっている。

スポーツ祭東京2013（東京国体）式典音楽の編曲、指揮を担当した。

吹奏楽を小澤俊朗氏、指揮を近藤久敦氏の各氏に師事。

日本管打・吹奏楽学会、吹奏楽検定・クリニック委員会委員。21世紀の吹奏楽“響宴”会員。やまももシンフォニックバンド指揮者。



司会　阿部 夏果 *Natsuka ABE*

1990年、神奈川県生まれ。

四歳からピアノを始める。日本音楽高等学校にて、ピアノ、声楽、合唱を学ぶ。在学中は合唱部リーダーとして活躍した。

現在は、ドワンゴクリエイティブスクールマスタークラスに在籍、アフレコやナレーションなどを勉強中。

Program notes

ゴールデン・ジュビリー ／ J.P.スーザ

「ジュビリー」とは、50年に一度行われていた祝賀のことを指す言葉で、この「ゴールデン・ジュビリー」はタイトルの通り、スーザが自身の指揮者生活50周年を記念して1928年に作曲したものです。しかし、自ら進んで作曲したのではなく、周囲からの強い勧めから作曲するに至ったためか、なかなか完成せず、スーザを悩ませたといいます。

輝かしい祝祭にふさわしい、華やかで、かつ優雅さをたたえた美しいマーチです。

3つの夜想曲より「祭」 ／ C.ドビュッシー

この曲は、着想から完成までにおよそ8年をかけて1899年に完成し、ドビュッシーの印象主義的という作風を樹立した作品です。「雲」「祭」「シレーヌ（海の精）」の3曲からなり、まるで絵画のように、たえず変化してゆく自然の情景を音楽の中に持ち込み、みごとに音楽に時間と運動、色彩をよみがえらせています。

「夜想曲」というタイトルは、アメリカの耽美主義の画家ホイッスラーの「ノクターン」と題された絵画シリーズのうちの『青と銀色のノクターン』もしくは『黒と金色のノクターン-落下する花火』から着想を得たと考えられています。また、表題の「夜想曲」とは音楽の形式を表しているのではなく、一般的な意味で、この言葉に含まれる印象や感じられる光を表しているのだとドビュッシーは述べています。

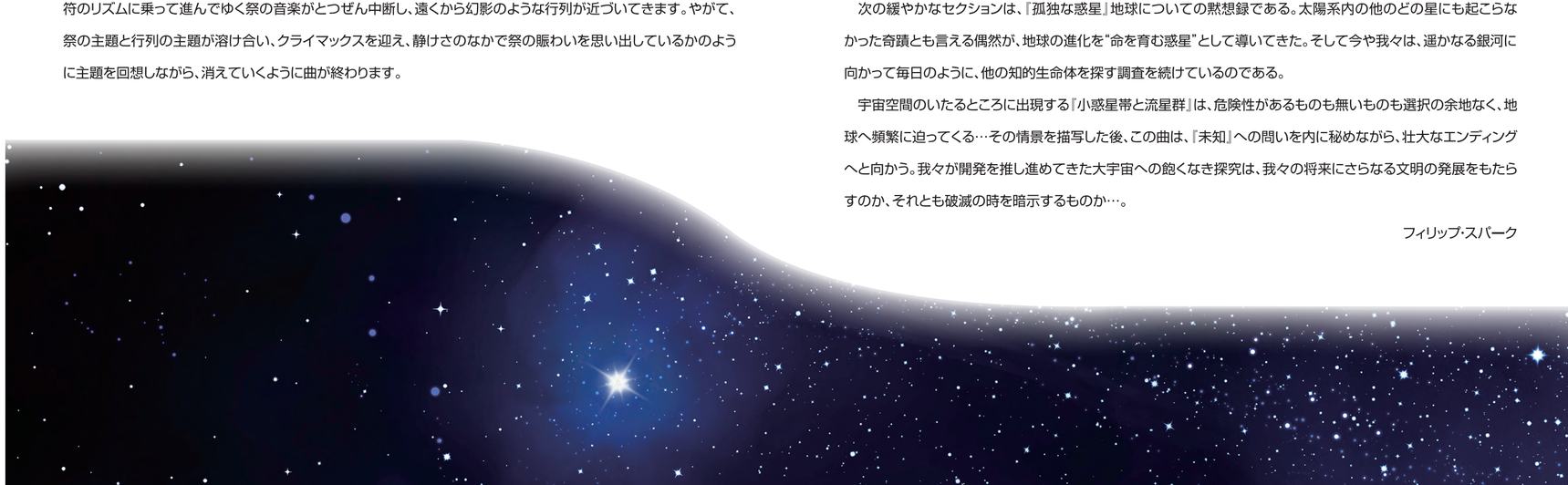
第2曲「祭」は、フランスの民族的な祭の盛り上がりと、祭のあとの静けさが描かれています。生き生きとした三連符のリズムに乗って進んでゆく祭の音楽がとつぜん中断し、遠くから幻影のような行列が近づいてきます。やがて、祭の主題と行列の主題が溶け合い、クライマックスを迎え、静けさのなかで祭の賑わいを思い出しているかのように主題を回想しながら、消えていくように曲が終わります。

宇宙の音楽 ／ P.スパーク

曲名は、「万物の根源は数である」とする古代ギリシャの数学者ピタゴラスによって唱えられた“宇宙は、振動数比率が単純に整数倍である音程によって形成される純正な音階と同じ法則によって、その調和が保たれている”という理論から、導かれている。ピタゴラスは、また、その音程比率は、太陽系内の六つの惑星（当時は、肉眼で観測できた水星・金星・地球・月・火星・木星をもって6個と考えられていた）が太陽から隔てる距離に一致すると信じており、さらに、「それぞれの惑星は固有の音を発し、絶えまなく“天上の音楽”を紡ぎ奏でている（ただし普通の人間には一切聞こえず、ピタゴラスだけがその調べを聴くことができた）」と論じた。加えて、古代ギリシャには“ハルモニア”という言葉があり、これは現代の“ハーモニー／和声”とは異なる、“音階”や“協和音程”を表わすものであって、さらには、その完成美を極めたものとして宇宙の本質そのものを体現する言葉と考えられていた（当時、紀元前500年頃は、歴史上最古の音楽形態である単旋律音楽しか存在していなかった）。このピタゴラスの理論による“六つの音”は、本作品後半の『宇宙の音楽』および『ハルモニア』のセクションで、その土台を構築する主題として使われている。

作品は、切れ目なく続く3つのセクションからなるが、まず冒頭は、『t=0』を喚起するホルンのソロで幕を開ける。“t=0”とは、「宇宙の誕生（ビッグバン）の瞬間tには、時間・熱量・素粒子・重力・磁力・元素などすべてのものが無（ゼロ）であった」という、いま最も多くの科学者達がほぼ確信している考えを表わしている。そしてこのソロのあとに、時間が生まれ宇宙が拡がってゆく“ビッグバンその後”の描写が続く…あまねく森羅万象は、たった一つの“点”の爆発から生まれたのである!

次の緩やかなセクションは、『孤独な惑星』地球についての黙想録である。太陽系内の他のどの星にも起こらなかった奇蹟とも言える偶然が、地球の進化を“命を育む惑星”として導いてきた。そして今や我々は、遥かなる銀河に向かって毎日のように、他の知的生命体を探す調査を続けているのである。

宇宙空間のいたるところに出現する『小惑星帯と流星群』は、危険性があるものも無いものも選択の余地なく、地球へ頻繁に迫ってくる…その情景を描写した後、この曲は、『未知』への問いを内に秘めながら、壮大なエンディングへと向かう。我々が開発を推し進めてきた大宇宙への飽くなき探究は、我々の将来にさらなる文明の発展をもたらすのか、それとも破滅の時を暗示するものか…。

フィリップ・スパーク